

# 松本の暮らしのなかに 生きてきた人形

話題提供 **三村 隆彦**さん (ベラミ人形店)

日 時 **12月13日(土)** 午後1時30分～3時45分(予定)

会 場 **あがたの森文化会館 講堂・第一会議室** 参加費 200円

※ 電話での事前申し込みが必要です (高校生以下は無料です)

なぜ人は人形をつくり、飾るのでしょうか？ なぜ人形は子どもから大人まで世代を超えて好まれるのでしょうか？

日本には世界に類を見ない様々な種類の人形があり、松本にも古来より地元の人たちが大切にしてきた人形がたくさんあります。今回のサロンでは松本押絵雛や七夕人形、松本姉様人形について、それぞれの歴史や特徴などを共通認識するとともに、皆さんの家の人形にまつわる風習やエピソードなども教えていただきたいと願っています。皆さんのお話から何か新しい発見や理解があるはずと、人形をテーマに話題提供する私自身も楽しみにしています。

＜松本押絵雛＞ 江戸時代の天保年間に松本藩が押絵雛の制作を殖産興業のひとつとして奨励し、明治中期が最盛期。しかし度重なる大火や粗製乱造、立体雛の流通などで大正末期には衰退。昭和45年ころ松本押絵雛の復元を試みる動きが起きて現在に至る。本年9月、長野県の伝統的工芸品に指定された。

＜七夕人形＞ 松本地方では江戸時代中期から七夕行事に人形を軒先につるして飾る風習があり、おもには「紙びな形式」と「着物掛け形式」がある。市立博物館が所有する七夕人形コレクションは、国の重要有形民俗文化財に指定されている。

＜松本姉様人形＞ 江戸姉様、京姉様とともに古くから全国に知られている和紙人形。商品化されたのは江戸時代末期で、昭和初期には子どもたちの日常の遊び道具だった。戦後は作られなかったが、昭和40年代に博物館所蔵の資料を参考にその技法が復活して今日に至っている。

三村 隆彦(みむら たかひこ)さんは1959年、松本市生まれ。大学卒業後に帰郷、家業のベラミ人形店で両親から人形づくりの心構えと技術を受け継ぐ。現在は2代目店主として、講習会などを通して技術の普及、伝承に努めている。趣味は学生時代から続けている写真撮影。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎35-6226 FAX 33-9986